

## 第20回北海道こども木工作品コンクールを終えて

企業支援部 技術支援グループ 高山光子

林産試験場では、(一社)北海道林産技術普及協会と北海道木材青壮年団体連合会との共催で、「北海道こども木工作品コンクール」を毎年開催しています。このコンクールは、日常あまり手にすることのない木工道具を使用し、想像力を生かして一つの作品に仕上げるという体験を通して、子供たちの木材や樹木への興味を育み、木工技術の向上を図ることを目的としており、今年で20回目の開催となります。

毎年、各市町村の教育委員会をとおして北海道内全ての小中学校に応募を呼びかけ、木工工作個人の部(造形的作品部門)、同(実用的作品部門)、団体の部、レリーフ作品の部の4部門について作品を募集しています。

応募作品については、美術館や学校教育関係者などによる審査委員会で、部門ごとに最優秀賞、優秀賞、特別賞を選考し、最優秀賞には知事賞を授与しています。

今年は全道の小中学校21校から、昨年の倍に近い454点もの作品の応募がありました。9月11日に審査委員会が開催され、受賞作品が選ばれましたので、これらの受賞作品を中心に、今年のコンクールについて御紹介します。

### ■ 木工工作個人の部 (造形的作品部門)

木工工作個人の部(造形的作品部門)には9校から74作品が寄せられました。すべて小学生の作品で、木や松ぼっくり、ドングリなどを使い、その素材の形や持ち味を生かして動物や虫、飛行機など様々なものを表現した創意あふれる作品が集まりました。

その中でも、最優秀賞に選ばれた旭川市立神居東小学校6年の多田愛彩さんによる「海の中の世界」は、小さな魚や貝、エビなどが暮らす海の中の世界を素材の持ち味を生かしながらいとこまで作り込んだ作品で、審査員からも「小さい魚などをうまく作っている」「女の子らしい繊細な作品」「魚の表情やエビなどうまく表現している」など、その繊細さが評価されました。

優秀賞には、木の枝の形状を生かし造形的ながらしっかりと作りの「木のイス」(旭川市立北光小学校5年 加藤拳太さん)と、木の形から見立ててワ

こを表現した「わに」(旭川市立神楽小学校3年 庭山竜騎さん)が選ばれました。



「海の中の世界」  
旭川市立神居東小学校6年 多田愛彩



「木のイス」  
旭川市立北光小学校5年 加藤拳太



「わに」  
旭川市立神楽小学校3年 庭山竜騎

特別賞には丸太や枝、木の葉などいろいろな素材をうまく使って表現した「自然ネコ」（旭川市立神居東小学校 3年 若林笑見さん）と流木を組み合わせた飛行機に小さな木片でプロペラなどの細かい部品まで表現した「ひこうき」（羽幌町立天売小中学校 1年 楠本真大さん）、木の皮を大胆にうまく使い勢いのあるクワガタを表現した「大きいクワガタ」（旭川市立神楽小学校 3年 北悠汰さん）の3点が選ばれました。



「自然ネコ」  
旭川市立神居東小学校  
3年 若林笑見



「ひこうき」  
羽幌町立天売小中学校  
1年 楠本真大



「大きいクワガタ」  
旭川市立神楽小学校  
3年 北 悠太

#### ■ 木工工作個人の部（実用的作品部門）

木工工作のうち実用品として制作された作品はその実用上の機能や精度について評価ができるよう、昨年から造形的な作品とは分けて設けた部門です。

今年は3校から18作品の応募があり、すべて小学校からの応募でした。

最優秀賞には別海町立別海中央小学校1年 由利航大さんの「きのカレンダー」が選ばれました。日付を記したドングリに画びょうが付けてあり、その月の曜日に合わせて日付を並べ替えて使うことができます。ドングリや木の枝を使い小学1年生らしくかわいらしく仕上げられた実用作品です。審査委員からは「素材の扱い方がうまい」「素材感をうまくコントロールしている」「生活の中で暮らしをともにするものとして良い」などの評価を受けました。

優秀賞は残念ながら該当作品はありませんでした。

特別賞には、写真を立てる部分に二またの枝を利用し、置物としてもかわいい「写真たて」（岩見沢市立第二小学校1年 佐藤悠世さん）と3色に塗られ使用状況にあわせて幅を変えられる「カラフルな本だな」

（登別市立青葉小学校3年 笠間滉陽さん）、「止まり木があるなど使うことを考えて配慮がある」との評価を受けた「鳥の巣箱」（別海町立別海中央小学校4年 吉田大起さん）、根気よくきれいに木を削っていった点が評価された「バット」（別海町立別海中央小学校6年 深川颯さん）の4点が選ばれました。



「きのカレンダー」  
別海町立別海中央小学校 1年 由利航大



「写真たて」  
岩見沢市立第二小学校  
1年 佐藤悠世



「カラフルな本だな」  
登別市立青葉小学校  
3年 笠間滉陽



「鳥の巣箱」  
別海町立別海中央小学校  
4年 吉田大起



「バット」  
別海町立別海中央小学校 6年 深川 颯



## ■ 木工工作団体の部

団体の部には小学校1校，中学校1校からそれぞれ1作品，計2作品の応募がありました。

2作品ともすばらしい作品で最優秀賞候補との評価でしたが，最優秀賞は1点のみであるため審査委員の検討の結果，最優秀賞は該当無しとし，2点とも優秀賞とすることになりました。

一つは滝上町立濁川小学校1・3・4・6年による「わくわく遊園地」です。ドングリや松ぼっくり，木の枝など様々な素材を使って作った遊園地でドングリのこどもや動物たちが楽しく遊んでいる様子を表現した作品です。中央には手で回すことのできる木の枝の観覧車があり立体的に仕上げられています。審査委員からは「みんなで楽しく作っている感じがでている」「いろいろな工夫が見える」「いろいろな素材を上手にを使って表現豊かに作っている大作」との評価を得ました。

もう1点は当麻町立当麻中学校1～3年による「集うⅣ～エゾシカたち～」が選ばれました。木の棒を林に見立てた台に一つ一つ表情の違うエゾシカたちが集まっている様子を表現した作品で「仕上がり良く見応えがある」「動物の表情を樹種の色の違いで表現しているなど完成度が高い」等の評価を受けました。



「わくわく遊園地」  
滝上町立濁川小学校 1・3・4・6年  
保科龍汰，山本羽珠，奥田達優，中村雪乃，  
平本未緒，奥田 覚，高澤祐希

## ■ レリーフ作品の部

この部門は林産試験場で開発した「アート彫刻板」を使って作品を制作してもらいます。この彫刻板は，赤色の顔料を加えた接着剤で数枚の単板を貼り合わせた合板で，彫り方によって赤い接着層が様々な模様となって現れます。

今年も募集時に彫刻板の彫り方などを紹介したチラシ



「集うⅣ～エゾシカたち～」  
当麻町立当麻中学校 1・2・3年  
浅見北斗，大沼美裕，西畑佳織，尾田羅奈，  
青柳伶奈，一条真衣，角井瑠那，日下和音，  
工藤優菜，小松 唯，佐藤美羽，鷺見友愛，  
内藤里那，菅野里歩，大野まゆ，鈴木美涼

シを添付したところ，昨年の倍以上の応募があり，11校から360作品が集まりました。特にこれまで応募の少なかった中学校からの応募が増え，見応えのある作品が数多くよせられました。

最優秀賞には当麻町立当麻中学校3年の鈴木美涼さんの「紫陽花」が選ばれました。彫刻板の赤と白の色をうまく使って紫陽花の花一つ一つを表現した点や，葉の奥行き，重なり具合を丁寧に何層にも彫ることでうまく表現している点，構図の美しさなどが高く評価されました。

優秀賞には彫刻板の特徴を生かし，赤い層による模様をうまく使って表現し，丁寧に彫り込んだ点が評価



「紫陽花」  
当麻町立当麻中学校 3年 鈴木美涼

された「花」(札幌市立簾舞中学校 2年 瀬戸エミールさん)と彫刻板全体に赤や白を使ってたくさんものを彫っていながらまとまった一つの画面として仕上げている点が評価された「駅で」(池田町立池田中学校 3年 坂田十勝さん)が選ばれました。

特別賞には線や面を全体の構図にうまく盛り込んでいる点が評価された「凜凜」(池田町立池田中学校 3年 米田小梅さん)と屋根や壁など建物の質感がうまく表現されている点が評価された「ロックハート城」

(札幌市立簾舞中学校 3年 鈴木風花さん)、赤と白の素材の色を陰影としてうまく使っている点が評価された「昼間のコロッセオ」(札幌市立簾舞中学校 3年 貝澤優衣さん)の3点が選ばれました。



「花」  
札幌市立簾舞中学校 2年 瀬戸エミール



「駅で」  
池田町立池田中学校 3年 坂田十勝



「凜凜」  
池田町立池田中学校  
3年 米田小梅



「ロックハート城」  
札幌市立簾舞中学校  
3年 鈴木風花



「昼間のコロッセオ」  
札幌市立簾舞中学校  
3年 貝澤優衣

### ■ コンクールを終えて

今年は、応募作品数が大幅に増えたことで、幅広い内容の作品が集まりました。特に木工工作個人の部の造形的作品部門では、素材の持ち味を生かした創造的な作品が数多く集まり、見応えがありました。

一方、実用的作品部門にも日常生活で使いたくなるような工夫をこらした作品が集まりましたが、中学校からの応募がなかったこともあり、加工技術や実用上の精度が評価されるような作品が少なく、審査員からもこの点で実用品としてしっかり作りこまれた作品の応募を期待する声が聞かれました。また、同じく団体の部の応募作品の増加も来年の課題としてあげられました。

これらの指摘をふまえ、今後もより多くの学校に参加してもらえるよう、募集方法などを工夫しながら内容豊かなコンクールにしていきたいと考えています。

なお、今年も9月15日～10月8日まで、当場の「木と暮らしの情報館」において、コンクールの全応募作品を紹介する「第20回北海道こども木工作品コンクール展」を開催しました。



第20回北海道こども木工作品コンクール展の様子